

特定非営利活動法人 JIPPO

2012(平成 24)年度 事業報告

2012年4月1日から2013年3月31日まで

2012年度を振り返って

2012年度、JIPPOは東日本大震災の被災地のうち、東京電力福島第一原子力発電所事故の放射能汚染に苦しむ南相馬市と飯館村での活動に力を入れた。年度の始めは、次世代のエネルギーを考える環境教育を進めるため、小中学校への太陽光発電パネルの設置を試みたが、資金を得られず方向を転換した。単発的なイベントではなく、長期にわたり恒常的に現地と関わる事業を模索した。その中で、菜の花の栽培による農地の除染に取り組むいくつかの団体から話を聞き、JIPPOも連携して行うことを計画した。年度末には、浄土真宗本願寺派の組織を通じて賛同者を募り始めた。

海外の支援事業は、スリランカにパキスタンとカンボジアを加えた新たな事業を構想し、JICAや外務省、ジャパンプラットフォーム等、大きな助成を得るべく申請を行ってきたが、現地拠点や駐在する職員がいないことが影響し、本格的な事業に乗り出すことができなかった。しかし、スリランカの紅茶小規模生産者グループや北部ヴァヴニアの戦災孤児院には度々訪問し、関係づくりを進めている。プランテーションからの脱却や、成長した戦災孤児の職業訓練は現地の人々に必要な事業であり、賛同者を得ながら進めていく。また、年度末にパキスタンの給水事業に対し助成金が決まり、次年度の事業として開始する。

フェアトレード事業に関連し、念願だった東ティモールへのスタディツアーを初めて行った。独立10周年を迎えた同国が新たな産業として開発を始めたエコツーリズムを支援するため、現地NGOと連携して実施したことは良い成果を上げたと言える。一方、本体であるフェアトレード事業は売上げが半減した。生産者と直接つながり、その実情に思いを馳せることができる取引がJIPPOの目指すフェアトレードであり、そのきっかけを作ることで、協力者を増やしていきたいと考える。

各事業の実施内容

1 海外支援事業

【スリランカ】

①ウバ地方における小規模自営農民グループに対する紅茶の有機栽培支援事業

JIPPOはこれまでウバ県ハプタレーにある「グリーンフィールド農園」のフェアトレード事業を通じ、プランテーション農民の所得向上と生活改善のための事業を行ってきた。しかし、古い体質が依然として残るプランテーション農園を通じた支援は、農民の自立やタミル人労働者の生活向上になかなか結び付かないことや、単一栽培であるプランテーションのシステムそのものがJIPPOのめざす多様性のある地球環境、社会環境のありかたに疑問を投げかかる側面を持つため、JIPPOの事業を紅茶生産地での自営農民組織づくりへと少しずつ転換していくべきと考えている。そのため、JICAの草の根技術協力事業や外務省のNGO連携無償資金協力の獲得を試みたが、今年度は実現に至らなかった。

なお、フェアトレードを実践するグリーンフィールドとの連携は今後も継続し、小規模な自営農民組織と大規模農園との理想的な共存を進めていく。

② ヴァヴニアの戦災孤児らへの農業を中心とした職業訓練支援事業

スリランカ北部の町、ヴァヴニアにある「セト・セバナ」孤児院は、シンハラ人僧侶カリヤーナティッサ師がタミル人の戦災孤児を養育している寺院の孤児院である。現在約 60 人の子どもたちがここで生活しているが、成長した孤児がこれからどう自立していくかが大きな問題となっている。JIPPO は師の要請で、子どもたちが農業で生計を立てていくための職業訓練を支援する事業を計画したが、今年度は話合いにとどまった。

2010 年のスリランカ洪水の際には、壊れた施設や崩れた農地を修復する資金を援助し、今年度、修復を終えた。

【パキスタン】

クアルド村飲料水供給のためのハンドポンプ設置事業

2010 年のパキスタン洪水復興支援事業で支援した現地 NGO「GRACE」と連携し、パキスタン北方エリアにあるスカルドゥ地区クアルド村で、井戸を掘りハンドポンプ設置する事業を計画。公益財団法人日本国際協力財団へ助成金を申請し、年度末に交付が決まった。2013 年事業として実施していく。

【カンボジア】

カンボジア民俗芸能支援プロジェクト

カンボジア農村に残る伝統的な民俗芸能を継承し、地域おこしと若者たちの生きがいを創出する事業として計画。資金を助成団体へ申請してきたが採択とならず、次年度へ繰越となった。

助成金等申請記録

- ① JICA 草の根技術協力事業について相談 (2012 年 5 月 18 日)
- ② 外務省 日本 NGO 連携無償資金協力について相談 (2012 年 5 月 18 日)
 - ・スリランカ 小規模自営農民グループに対する紅茶の有機栽培指導
 - ・スリランカ ヴァヴニアの戦災孤児らへの農業を中心とした職業訓練支援
- ③ ジャパンラットフォーム「共に生きる」ファンドへ、東日本大震災復興支援事業「東電福島第一原子力発電所被災地における小中学生の環境保全活動を支援する事業」助成金申請 (2012 年 8 月 9 日) →不採択
- ④ 日本国際協力財団へ「パキスタン・クアルド村の飲料水供給のためのハンドポンプ設置事業」助成金申請 (2012 年 12 月 3 日) →採択
- ⑤ 全日本社会貢献団体機構へ「カンボジア民俗芸能支援プロジェクト」助成金



自営農民との話し合い



セト・セバナ孤児院の洪水被害修復

申請（2012年12月26日）→不採択

2 スタディツアーの企画・実施

①「仏跡巡拝とインド福祉村を訪ねる旅」

期 日：2012年8月25日（土）～9月1日（土）

参加数：13名（事務局2名を含む）

訪問地：デリー、ルンビニ、クシナガラ、サールナート

内 容：釈尊ゆかりの地を訪ねるとともに、農村での医療現場を視察し、村の子どもたちと交流した



インド福祉村での子どもたちとの交流

②東ティモールスタディツアー「暮らし探訪エコツアー」

期 日：2013年3月3日（日）～3月12日（火）

参加数：8名（事務局2名を含む）

訪問地：ディリ、マウベシ、バウカウ、トゥトゥアラ

内 容：JIPPOがフェアトレードしているコーヒーの産地を訪ね、農民らと交流した。また東ティモールが新たな産業として力を入れているエコツアーの現状を視察した。



東ティモールで伝統的家屋に宿泊

③大学との連携

インドツアーは、龍谷大学ボランティア NPO 活動センターが企画する「海外体験学習プログラム」の対象ツアーに採択され、参加学生5人に対し同センターから補助金が支給された。

東ティモールツアーは実施後、参加した桃山学院大学の学生が大学の「認定研修制度」に申請し、ツアー参加による単位取得が認められた。

3 フェアトレードの実施

【販売数 2013年3月31日】

商品名	売上個数				合計
	4月 ～6月	7月 ～9月	10月 ～12月	1月 ～3月	
ウバ紅茶リーフ（袋）	64	39	230	59	392
ウバ紅茶リーフ（箱）	31	26	34	8	99
ウバ紅茶ティーバッグ	561	92	154	153	960
カフェ・ティモール（ドリップ）	651	257	182	169	1259
カフェ・ティモール（粉）	28	44	42	94	208
カフェ・ティモール（豆）	31	10	14	30	85
カフェ・ティモール ドリップ（バラ）	663	229	839	857	2588
カフェ・ティモール ミニパック（3P）	1	0	170	0	171

カフェ・ティモール ミニパック (4P)	45	10	0	0	55
カフェ・ティモール ミニパック (5P)	62	0	0	0	62
業務用 (ティーバッグ単体)		6000		0	6000
業務用 (レギュラーコーヒー 500g)	16	70	92	20	228

【売上額 期末決算】

年間売上額：¥2,736,485.－

(前年度売上：¥4,655,377.－ 前年度比：58.8%)

事業開始からの売上総額 ¥13,975,407.－

【販促状況】

- ・HPのフェアトレード紹介ページをリニューアルしたことで、「HPでの商品を見た」という反響があった。
- ・商品チラシの裏面をFAX注文書にしてリニューアルした。またギフトのチラシを新しく作った。これらを会員継続依頼および会報に同封して発送したところ、直後の注文が多かった。
- ・JIPPO事務所に電子マネーの端末「KAZAPi」を設置した。WAON、Edy、iDが利用できる。HPと会報で周知したが、利用度が低く利用料が発生するため、6か月後の11月に撤去した。
- ・7月20日より、聞法会館が1階喫茶コーナーでJIPPOのカフェ・ティモールを使ったホットコーヒーを、一杯350円で提供。3月末に委託業者変更のため、引き続き継続を依頼。
- ・前年度に比して売上が半減した。(売上が記念品等大口の注文に依拠する)

4 東日本大震災復興支援

- ①東京電力福島第一原子力発電所事故被災地における小中学生の教育および野外活動を支援する事業「福島キッズキャンプ@朱鞠内・多度志」

期 日：2012年7月22日(日)～7月30日(月)

実施地：北海道雨竜郡幌加内町朱鞠内 NPO法人シュマリナイ湖ワールドセンター内
ふれあいの家「まどか」、深川市多度志「一乗寺」ほか。

参加者：南相馬市内の小中学生と保護者、28名

内 容：NPO法人シュマリナイ湖ワールドセンター、たどしこぶしの会、真宗支援
ネットオンコのかげはし、

JIPPOの4団体共催。被災地連携団体は、NPO法人南相馬こどもをつばさ。北海道・朱鞠内湖畔の研修センター等を拠点に野外活動を楽しんだ。

- ②被災地(福島県)の物産販売による経済的支援の取り組み

福島物産販売はイベント等での販売仲介を継続

- ③岩手県沿岸部での活動

花巻市に開設した「とうわボランティア



福島キッズキャンプの様子

の家」は6月で閉所した

④第4回 JIPPO バザーの開催

期 日：2013年1月12日（土）～14日（月）

会 場：聞法会館南側駐車場

目 的：東日本大震災復興支援のうち、福島支援のための活動資金に充てる

売 上：230,000円

⑤菜の花プロジェクト

チェルノブイリ救援・中部（名古屋市）、菜の花プロジェクトネットワーク（安土町）と連携し、東京電力福島第一原子力発電所事故の被災地で菜の花を栽培して農地の放射性物質を除去し、バイオディーゼルやバイオガスを生産する。

南相馬市・飯館村で現地協力を呼びかけ、南相馬市小高区で1軒、飯館村で1軒の協力者が得られたため、次年度に本格的に栽培準備を開始する。

⑥その他

福島支援「被爆ピアノコンサート」後援

主 催：被爆ピアノを聴く会（西脇 修 代表）

期 日：2012年8月2日（木）午後6時～8時

会 場：聞法会館 3階 多目的ホール

内 容：広島の前爆に被災しながらも今に残る「被爆ピアノ」を使った演奏会。

福田直樹氏の演奏と、ピアノを所有する矢川光則氏のお話。チケット1,500円。収益金5万円が、JIPPOの東日本大震災復興支援活動に寄付された。

5 国内における貧困者への支援

龍谷大学ボランティア・NPO活動センターとの共同事業。月一回、学生らと市内3河川を巡回し、食糧等支援物資の配給、聞き取り等を行った。そのほか、生活保護申請補助、就業相談等個別対応を行った。

【状況】

東高瀬川、西高瀬川、山科川の野宿者は減少し、5人程度になっている。11月より、月2日の活動日のうち1日は、新しい場所を回り、野宿から居宅に移った方の訪問やフォローを行うこととした。

2013年1月12日に、東本願寺および京都夜回りの会らの主催で開催された「第18回もちつき大会」の運営に協力した。



毎月一回の野宿者巡回訪問

6 平和構築に向けた取り組み

① 東ティモール独立10周年記念シンポジウム「東ティモールってどんな国？～独立から現在、未来を語る～」の実施

日 時：2012年12月3日（月）午後6時半～8時

場 所：聞法会館



東ティモール独立10周年シンポジウム

内 容：JIPPO のフェアトレード東ティモールから来日したゲスト 3 人による講演と質疑応答。教育、人権、ジェンダー等について意見が述べられた。約 20 名の聴講者があった

- 7 環境問題に向けた取り組み
各事業において、有機栽培や循環性を重視した方法で取り組む
- 8 調査・研究
スタディツアーに絡め、スリランカでの自営農民育成および戦災孤児の就業訓練等の可能性について調査
- 9 ネットワーク系 NGO への加盟の継続と他の NGO との連携
 - ・アユス春合宿参加：2012 年 4 月 19 日(木)、20 日(金)
 - ・パルシック東ティモール独立 10 周年記念シンポジウム出席：2012 年 5 月 18 日(金)
 - ・関西 NGO 協議会総会出席：2012 年 5 月 26 日(土)
 - ・NPO 法人フェア・プラス設立記念フォーラム協力：2012 年 9 月 16 日(日)、東山いきいき市民活動センター
- 10 広報活動の充実
 - ・会報発行（第 8 号 2012 年 6 月 1 日発行、第 9 号 2012 年 12 月 15 日発行）
 - ・国際協カステーション出展：2012 年 9 月 15 日(土)、JR 京都駅
 - ・旅 days2012 出展：2012 年 11 月 11 日(土)、中京区青少年活動センター
 - ・ワンワールドフェスティバル出展：2013 年 2 月 2 日(土)、3 日(日)、大阪国際交流センター
- 11 会員管理
今年度より、会費納入依頼を年度初めに一括して行うこととした
5 月に会費納入依頼書を発送、10 月に督促を発送

【会員数 2013 年 3 月 31 日現在】
正会員 128（個人 118、団体 10）
学生会員 6（個人 6）
賛助会員 151（個人 137、団体 14）
合計 285（個人 261、団体 24）
- 12 理事会および理事会の開催
 - ・第 1 回理事会（6 月 22 日）
 - ・第 4 回総会（6 月 22 日）
 - ・第 2 回理事会（6 月 29 日）役員改選（任期 2 年）
 - ・第 3 回理事会（7 月 2 日）理事長・副理事長互選
 - ・第 4 回理事会（2013 年 2 月 12 日）理事長・副理事長互選
 - ・第 5 回理事会（2013 年 3 月 18 日）

以 上